

特集

西条キャンパス周辺の整備計画構想から

昭和五十七年度の工学部の移転に始まった西条キャンパスへの統合移転計画は、平成六年度末の学校教育学部、法学部、経済学部の移転をもって、予定の九学部の移転が完了する。西条キャンパスは自然環境に恵まれているが、裏返せば、キャンパス周辺に既存の商業集積がなかっただけに、不便を強いられることになり、そこでの生活に不平不満の声も聞かれる。

西条キャンパス周辺は、将来どのように整備されようとしているのであろうか。西条でのキャンパス・ライフをより夢のあるものにするために、その整備計画に関する最新情報をお届けする。

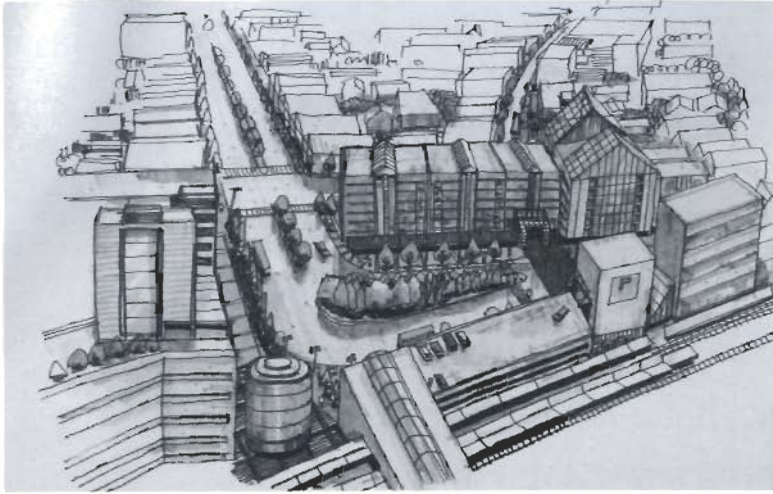


図1 西条駅前のイメージ

西条駅および東広島駅

周辺の整備構想

本学の教職員ならびに学生が多く利用している西条駅は、東広島市の表玄関口であり、その周辺は同市の中心的な商業集積地区です。また、東広島駅は、同市のもう一つの玄関口であり、その周辺は同市の第二の核として位置づけられ、新規開発が進められようとしています。

これらの両駅の周辺地区は、将来どのように変わるのでしょうか。「東広島地域商業近代化委員会」（東広島商工会議所）で検討されているこれらの地区の整備計画を紹介することにします。

西条駅周辺地区は

歴史と酒蔵のある

東広島の中核都市拠点へ

現在、西条駅前周辺には、西条プラザ、イーストタウン、フジの三つの大型店と、中央通り商店街、東本通り商



図2 西条駅前のイメージ

店街、本町商店街、岡町商店街、朝日町通り商店街の五つの商店街があります。将来は、新たな商業核として、駅前には宿泊、飲食、娯楽、文化等の複合都市機能を備えた再開発ビルが建設され、これらの新旧商業核を互いに結ぶ道路として、中央通りと中央巡回線が整備されます。

また、これらの道路の交差点付近には、市民の憩いの場としての公園「コミュニティ・パーク」がつくられます。ここは、西条駅周辺商業地区の中心として位置づけられ、イベント等が随時開かれます。東本通り、本町通りおよび朝日町通りにある酒蔵を観光資源として活用するため、店舗の外観を蔵風にししたり、歩道を石畳としたりすることが計画されています。



図3 東広島駅前商業ゾーンのイメージ

東広島駅周辺地区は 自然に恵まれた広域都市拠点へ

新幹線東広島駅周辺は、既存の商業集積がなく、新たな開発が可能な地区であり、広域・中域の高速交通拠点であることが特徴です。周辺部には豊かな自然が多く残されており、この自然を積極的に取り込んだ都市拠点が形成されます。緑地空間を十分に確保した中低層の商業施設が配置され、国際的で質の高い商品やサービスを提供する非日常型の商業ゾーンとなります。例えば、インターナショナル・ブック・マーケットや、世界のあらゆる地域の地図が揃ったマップ・ショップ、全国の日本酒が揃ったサケ・ショップ等が考えられています。

その他の「J」駅周辺地区の整備

八本松駅は、東広島市の西の玄関口です。駅前広場が人工地盤化されるとともに駅ビルが建設され、駐車場の収容能力も高められます。西の都市拠点として、健康・娯楽施設、宿泊施設、共同店舗等が整備されます。

西高屋駅は、東広島ニュータウンと近畿大学工学部の玄関口であり、将来、大幅な人口増加が期待できる地域です。既存の駅前商店街は、駐車スペースがないうえに道路幅が狭く、通過交通量が多いなどの問題点を抱えています。駅前広場の整備に合わせて、既存道路の拡幅、外環状サービス道路の整備等が行われます。外環状サービス道路と都市計画道路の交差点に、スポーツ・娯楽施設、共同店舗、駐車場等からなる複合商業核が形成されます。

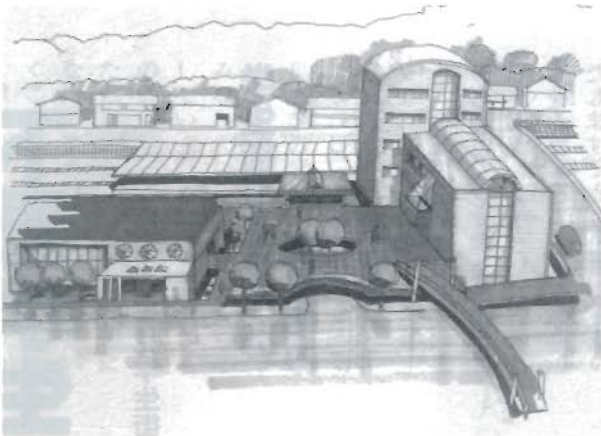


図4 八本松駅前のイメージ

(注) 参考図については、東広島地域商業近代化委員編集発行「東広島地域商業近代化基本計画報告書(要約版)」より転載

平成六年七月一日「ひがし広島国民年金健康保養センター」会議室で開催された、下見地区住民代表との連絡協議会での学長挨拶要旨

本日は、下見地区の皆様との連絡協議会に出席させていただき、広島大学がちょうど統合移転を完了しようとしているこの時期に、広島大学の様子をお話しさせていただき、皆様のご意見を聴かせていただく機会を得ましたことを、たいへんうれしく思っております。

広島大学の移転事業は、昭和四十八年にこの西条の地に決定して以来、二十年あまりの長い間、諸般のいろいろな事情により、移転年次計画を変更せざるを得ない状況を何度か繰り返しましたが、おかげさまでやっと平成七年の三月に、学校教育学部、法学部、経済学部の移転をもって完了する運びとなりました。

これで、統合移転計画の九学部が全部、ここ西条新キャンパスにそろることになり、学生約一万三千名、教職員等を併せると約一万五千名の大所帯が、研究や教育をはじめ種々の活動を始めることとなります。

また、本学学生の東広島市への居住率は、平成五年五月で七二%、今年の五月で七五%と徐々に上昇しています。統合移転が完了する来年の四月の居住率は、約八〇%を予想しておりますので、約一万名あまりの学生が、東広島市内で「衣」・「食」・「住」すべてにわたる生活を始めることとなります。

まず、「住」の問題の学生の下旬につきましては、地元の皆様や東広島市の皆様の



挨拶に立つ原田学長

たいへんご尽力、ご協力により、現在、学生が不自由なく生活させていただいておりますことに、厚くお礼を申し上げます。このように、たくさんの方が短期間に移ってまいりますと、住まいの問題以外にもいろいろと不便が生じることは、仕方のないことは存じますが、日々生活を過ごしております学生にとりましては、いろいろと不満や不便を感じているようであります。

学生がいま不自由と感じているものとしては、公共交通機関が十分整備されていないこと、娯楽施設や文化施設が少ないこと、アルバイトが少ないこと、日用品の買物物が不便であること、喫茶店、レストラン等が近くにほとんどないことなどの意見が寄せられております。

まず、アルバイトの件では、かなりの学生が広島市まで行っているようであり、周辺の道路の整備につきましては、外灯の整備、歩道の整備、自転車道の整備などの要望が多く出ております。

このように、学生ではありませんが、一住民、一市民でもあります彼らからみた率直な意見として聞いてやっていただきたいと思っております。

学園都市としましては、静かな環境が大

切であることは当然ですが、若い学生にとりましては、授業や課外活動など、キャンパス内での生活以外の時間や土、日曜日は、娯楽施設や文化施設、それに安い飲み屋など、社会人としての余暇の楽しみを過ごす施設を求めている結果だと思われまます。

今後、十八歳人口が急激に減少していく、いわゆる大学の厳しい冬の時代を迎えようとしている広島大学といたしまして、大学周辺の生活環境の整備は、今後の学生確保の面からも、大切な条件となるものであります。

この意味からも、現在整備が進められている下見学生街づくりは、地域と大学が一体となって、立派な学園都市を作っていくうえで、重要な役割を担っていると思えます。困難な問題も多くあるとは思いますが、なにとぞ一日でも早い整備をよろしくお願いたします。

本学は、初代森戸学長の開学の理念の一つである、地域社会に開かれた大学とすることを常に目指し、諸策を講じております。例えば、全国でも珍しい、フェンスや門のない開放的なキャンパスとしておりますし、昨年は、学内にたくさんサクラを植樹しました。将来は、サクラ並木を地域のみならず、開放し、憩いの場として利用していただくことを楽しみにしております。

さらに、開放講座や大学祭、フェニックス駅伝など、大学主催の行事をたくさん実施しています。移転完了後は、多くの地域の皆様に大学を有意義に活用していただき、大学と地域の交流がますます多くなることを希望しております。

今後とも、広島大学の教育・研究にご理解、ご支援をいただきますようお願い申し上げます。